



# くらうどーる

連載 12th

## Office 365のNASバックアップをやってみた!

クラウドにアップロードしておけば、データは確実に保全されると考えがちだ。実はそこには大きな落とし穴がある。意図しないファイル削除をはじめとする、利用者側の不適切な運用がそれだ。こうした課題の解決策として注目したいのが、Synology NASによるオンプレバックアップである。今回は無償提供される専用アプリ、Backup for Office 365の導入を実際に試してみた。

### なぜオンプレミスによるクラウドバックアップが必要か

複数データセンターへのデータ分散や自動フェイルオーバーの標準化に伴い、クラウドの可用性は大きく向上している。ひと昔前のように安定性や信頼性に不安を持つエンドユーザー様はもはや少数派だ。むしろ、クラウドに上げておけばデータは確実に保全され则认为の人が大部分だろう。

ここで注意したいのが、データが失われる原因が障害だけとは限らない点だ。その一例が操作ミスによって、大切なファイルやメール、連絡先などを削除してしまうケース。復元には多くのステップを踏んだ手順が必要になり、復元が行えないことも少なくない。またローカルに侵入したマルウェアによりクラウドの

データが消去、改変される可能性もある。従業員による意図しないデータ消去や意図的な改ざんも含め、利用者側のセキュリティの弱点がクラウドの脅威につながる点にも注目が必要だ。

クラウドのデータ保全には、さらにもう一つの大きな課題がある。それは、退職者に関するデータをどのように管理していくかという問題だ。

Microsoft Office 365などのクラウドサービスの場合、アカウントを解約した時点でユーザーに紐づけられたファイルやメール、連絡先、カレンダーなどの多様なデータにアクセスすることができなくなる。その一方で、退職者に紐づけられたデータの保全期間に関する目安は存在しないのが実情だ。そのため、いつ必要になるのか分からないデータ保全のため、運用を停止し

たアカウントを維持し続けているエンドユーザー様も少なくない。

これらの課題の解決策になるのが、クラウドをオンプレミスでバックアップするという観点だ。クラウドとオンプレのバックアップソリューションは既に多くのベンダーが提供しているが、導入コストの問題もありなかなか普及が進んでいないのが現実である。こうした中注目したいのが、Synologyが無償で提供するバックアップソリューション Active Backup for Office 365だ。

SynologyのNAS製品は、クラウド連携をはじめとするアプリケーションが充実していることでも知られる。同社は既にGoogle Drive、Dropbox、OneDriveをバックアップするアプリケーションを提供しているが、昨年正規版がリリースされたActive Backup for Office 365の特長は、OneDriveやOutlook、Exchange Online、SharePoint Onlineなどに保管されるデータを包括的にバックアップできる点にある。特定アカウントに紐づけられたデータのみを抽出してバックアップできるため、「退職者のデータのみオンプレに移行させたい」というニーズにもスムーズに対応可能だ。今回は、Active Backup for Office 365のインストールを実際に試してみた。

### ● Office 365 にバックアップが必要な理由

#### Reason.01 意図しない削除

ユーザーの操作ミスによる削除は、多くのステップを踏んだ復元やファイル再作成の必要を生じさせる。

#### Reason.02 退職者への対応

退職者のデータがいつ必要になるかは分からないため、ライセンス継続などが必要になる。

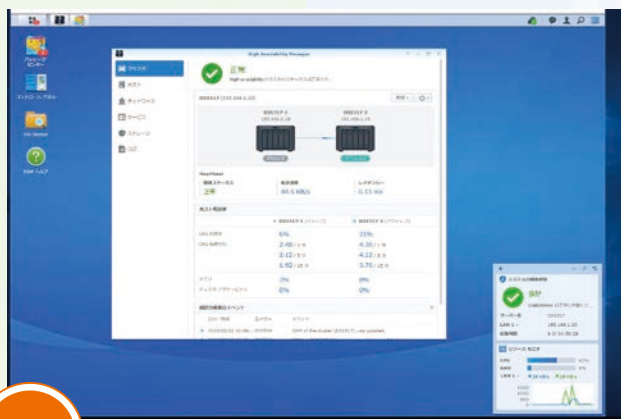
#### Reason.03 内部のセキュリティ脅威

意図的なデータ削除は想像以上の頻度で発生している。その対策には大きなコストが必要になる。

#### Reason.04 意図しない削除

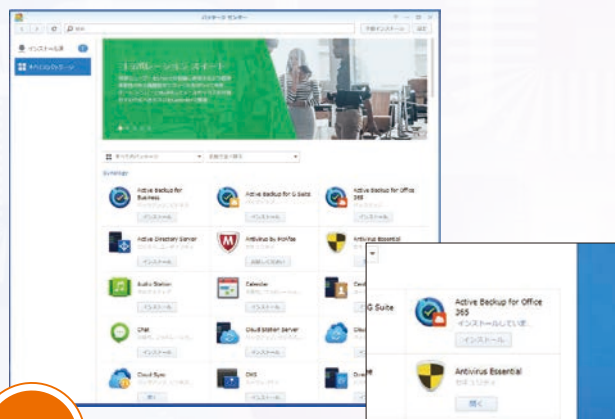
マルウェアの脅威は増大し続けている。従業員教育も含め、万全な対策は不可能。

## Active Backup for Office 365の設定手順



01

まずWebブラウザでSynology NASに共通するオペレーティングシステム、[DiskStation Manager] (DSM)を開き、左隅の[パッケージセンター]のアイコンを選択する。画面を見ると分かる通り、DSMの操作はWindowsとほぼ同様で、マウスポインターでアイコンを選択するだけで階層の移動やアプリ起動が行える。



02

[パッケージセンター]はWindows PCにおけるMicrosoft Storeのような存在と考えると分かりやすいだろう。今回のテーマであるOffice 365のバックアップには、Active Backup for Office 365を選択する。[インストール]を選択するとすぐにダウンロードが開始される。



03

ダウンロード後、すぐにActive Backup for Office 365の[admin コンソール]が立ち上がり、設定作業をバックアップしてくれる。まず行うのはアクティベーションに関する手続きだ。画面の指示に従い、[Synologyアカウント]の登録と[パスワード]の入力、プライバシーポリシーの承認を行う。



04

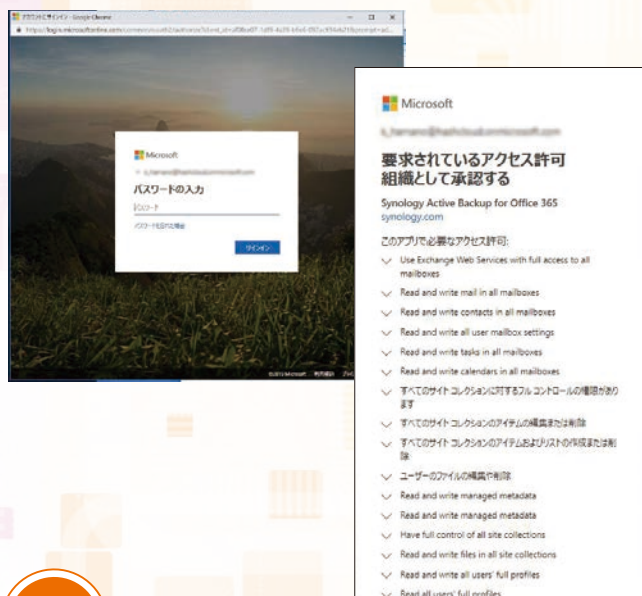
次に立ち上がるのが[タスクを作成]画面だ。ここから先は、その指示に従い各種設定を行うことになる。まずはエンドポイントとして[Office 365]を選択する。ちなみに[Office 365 Germany]は厳しい規制が課せられる欧州連合(EU)域内、[21Vianet]は中国国内のユーザーに対応したオプションになる。

### ● 低コストで簡単運用、SOHO向けから大規模企業向けまでカバーするSynology NAS

現在のオフィスワークでは、データ共有は必要不可欠。手軽に導入できる高速で多機能なNAS(Network Attached Storage)は事業規模にかかわらず、検討すべき投資機材だ。中でもSynology NASは、分かりやすい管理操作や多彩なアプリの無償提供が好評だ。これまでのNASにあったハードルの高いイメージを払拭している。

Synologyは、もともとソフトウェア開発会社をベースに成長し

ているため、付属するソフト群は、他のメーカーとは比較にならない。管理系アプリから、ソフトウェアRAID、HAサービスなど、他社では別料金となる機能やサービスを無料で利用できるのだ。今回紹介しているバックアップサービスもその一つ。NASとしてのスペックはもちろん、管理運用における業務の効率化、可用性の担保など総合的に考えて、現在のNASのベストソリューションであることは間違い無い。



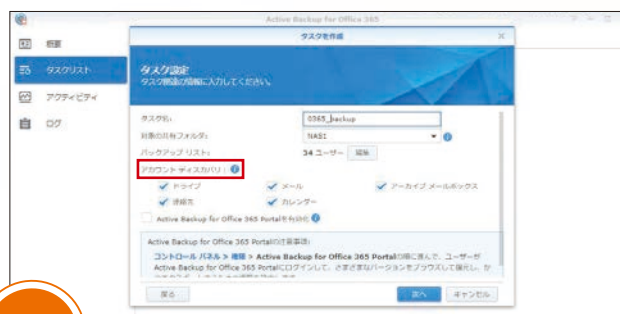
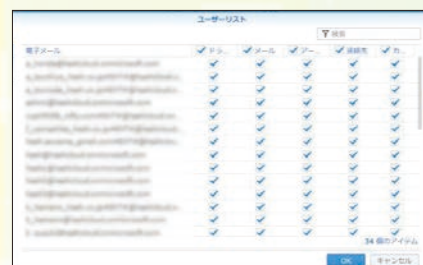
05

エンドポイントを選択すると、Office 365の認証画面がポップアップする。管理者としてログインし、[ドメイン管理者電子メールアドレス]と[パスワード]を入力し認証プロセスを完了すると共に、「Active Backup for Office 365」によるアクセス許可を承諾する。



06

Office 365の認証を終えると[タスク作成画面]に戻り[タスク設定]を行う。任意の[タスク名]を入力し、[共有フォルダ]をドロップダウンメニューから選択する。次に[編集]を選択して、バックアップするユーザーおよびサービスを選択する。今回は全ユーザーの全サービスをバックアップしたが、目的に応じて選択が可能だ。



07

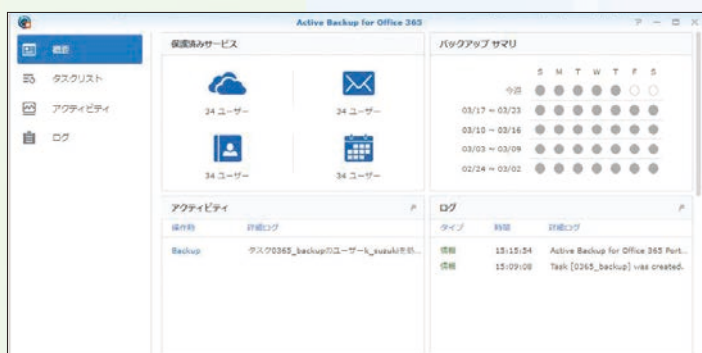
なお[ドライブ][メール][アーカイブメールボックス][連絡先][カレンダー]の5項目の[アカウント ディスカバリ]を有効化することで、新たにドメインに追加されたすべての新規ユーザーのバックアップを自動的に行うことが可能になる。



08

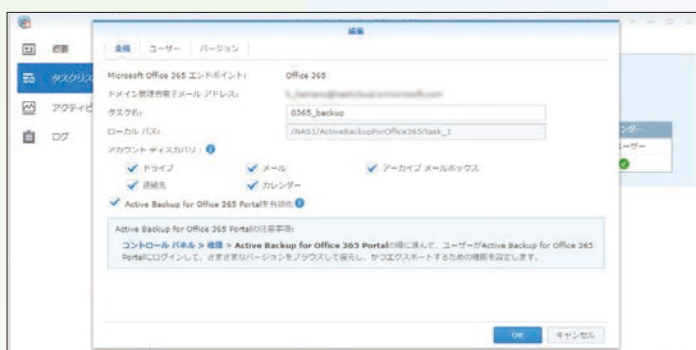
次に[バックアップポリシー][ファイルバージョン保持ポリシー]を選択する。今回は、データ更新の都度バックアップを行う[継続的バックアップ]および[すべてのバージョンを保持]を選択した。データ容量を考えると、旧バージョンを一定期間保持した後に自動消去する[履歴のバージョンが保持される日数]を設定する方が望ましいかもしれない。





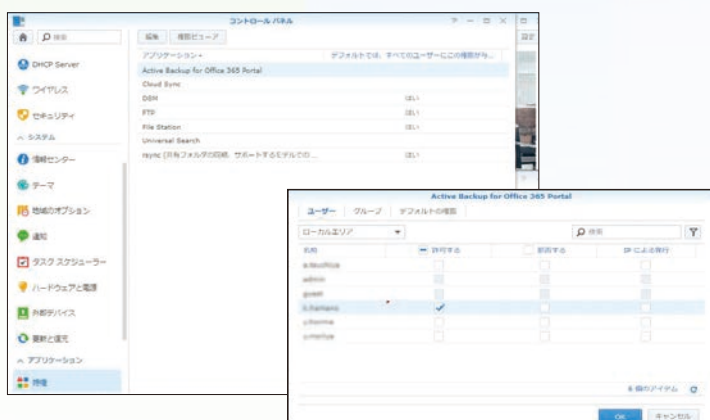
09

設定に関する手続きは以上で終了。バックアップが開始される。バックアップのステータスの把握やバックアップ内容の編集は、[adminコンソール]上で一元的に行うことができる。



10

Active Backup for Office 365 のもう一つの特長は、ユーザーが管理者の支援なしにデータを復元できる点にある。次にその設定を行おう。まず[adminコンソール]のタスク編集画面で[Active Backup for Office 365 Portal]の有効化を選択する。



11

次に[DSM]の[コントロールパネル]を開き、[特権]→[Active Backup for Office 365 Portal]の順に進む。ポップアップした管理画面上でユーザーを選択することで、ユーザー自身によるデータ復元が可能になる。

## まとめ

Synology製品の扱いやすさを高く評価する声は多い。Active Backup for Office 365のインストール画面も、そうした評判に違わないものだった。これであれば、下調べの必要もなく、すぐに各種設定が行えるはずだ。また[Active Backup for Office 365 Portal]には、コンテンツ検索やデータプレビュー機能も備わり、スムーズなデータ復元をサポートしてくれる。メール、連絡先、カレン

ダーのデータは、eml、csv、iscフォーマットによるエクスポートも可能だ。データ抽出、復元作業が、管理者を煩わせることなく、ユーザー自身の手で行える点も大きなポイントだ。退職者のデータ保存は、共有メールボックス等を利用する方法もあるが、管理者による作業が必要になる上、移行漏れの心配もある。退職者のアカウント運用を続けているエンドユーザー様に限らず、意義ある提案になるはずだ。